

趣旨説明

シンポジウム
「大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう」
平成30年9月20日（木）
金沢大学附属図書館

シンポジウムの概要と目的

- テーマ：大学図書館での電子書籍の導入と蔵書構築の今後
- 内容：
 - ① 前半：複数の観点から、現状と問題点を確認
 - ② 後半：展望や具体的（促進）策についての意見交換
 - ③ （未来の大学図書館の蔵書構成の見直し）
- 目的：いろいろな要素が関連する未来の話⇒
いろいろな可能性・選択肢・考え方を提示し、
各館での検討のヒントとしてもらうこと

2

テーマの背景

1. **予想**：電子書籍には利点が多い⇒電子ジャーナルのように普及するだろう
2. **期待**：電子化による、省スペース、省力化、省予算＋利用者の満足度アップ
3. **実感**：本当に電子化するのか？どこまで電子かするのか？実感は薄い
4. **懸念**：いろいろありそう（→後述）

3

論点

- 論点1：**大学図書館利用者にとって有用な電子書籍とは？**
書籍タイプごとに向き、不向きがあるのでは？現在提供されているコンテンツはどうか？
- 論点2：**新刊学術書の電子書籍が普及するには？**
ニーズにあった選書、大学図書館に合ったビジネスモデル・価格…
- 論点3：**学術書の電子書籍化で書架スペース問題を解決するには？**
既存蔵書の大規模除籍をするには？；国立国会図書館等全国的な書籍コンテンツの電子化・OA化、シェアードプリント、ILLの動向…
- 前提となる各種条件
- ① 紙の書籍にこだわらないマインドの定着
 - ② 電子書籍をめぐる技術の改善

4

事前アンケート結果

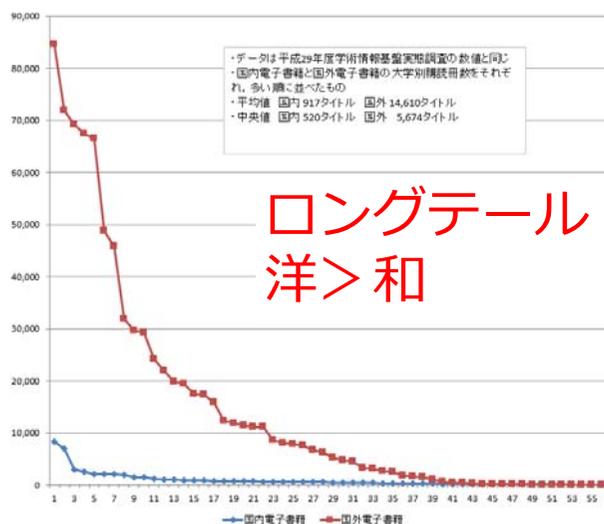
シンポジウム
「大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう」
平成30年9月20日（木）
金沢大学附属図書館

実施概要

国立大学図書館蔵書の電子書籍化に関するアンケート

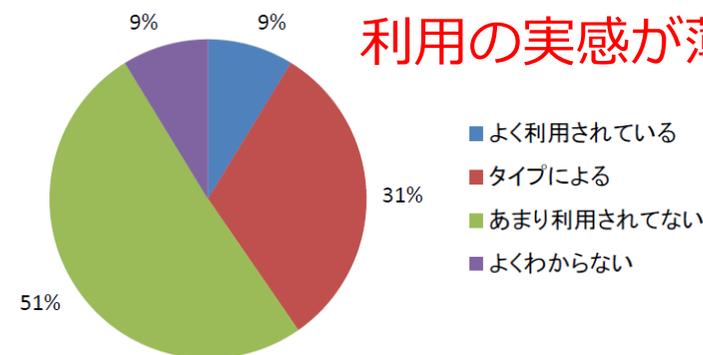
- 実施期間 2018年7月2日（月）～7月25日（水）
- 配布先 国大図協加盟機関（92機関）
- 回答数 **57機関**（回答率62%）
- 回答方法 回答用紙（Word）に記入（選択式+記述式）
- 回収方法 回答用紙を電子メールで返送

大学別購読電子書籍タイトル数の分布

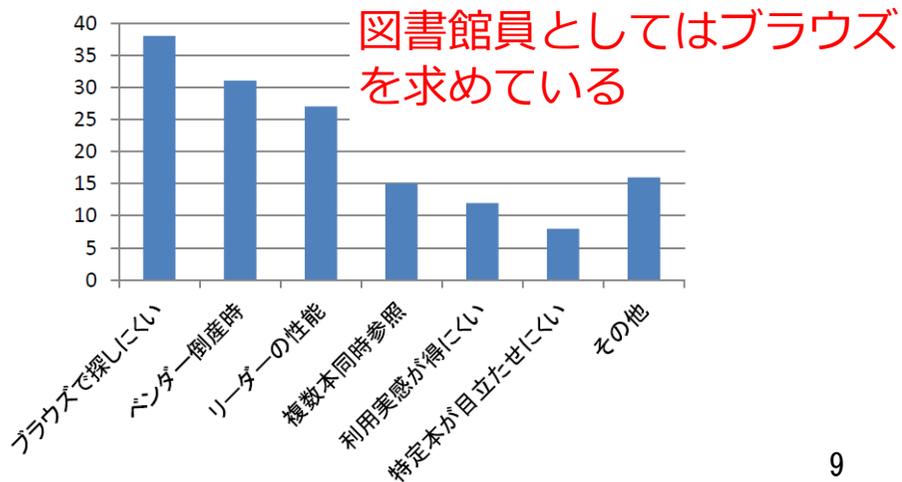


【設問1】電子書籍はよく利用されていますか？

よく利用されている	タイプによる	あまり利用されていない	よくわからない	合計
5	18	29	5	57



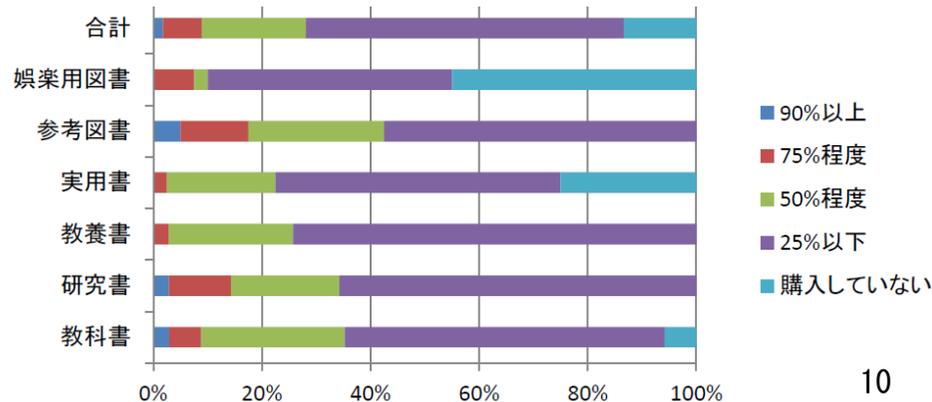
【設問2】 電子書籍化した場合の問題点



9

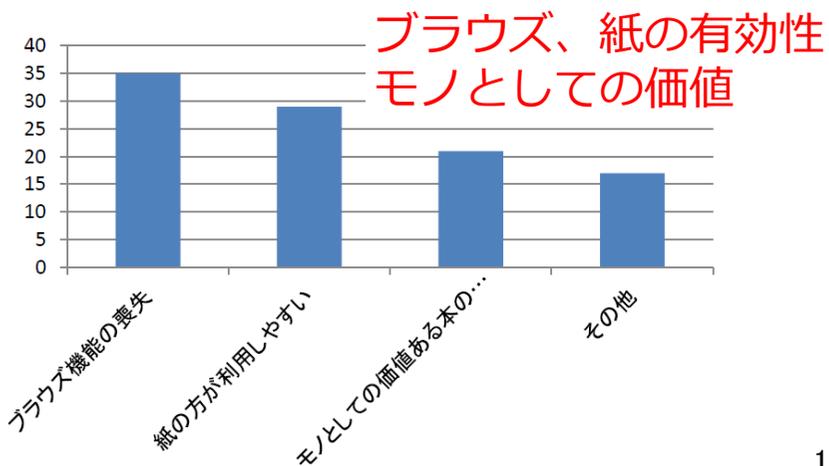
【設問3】 10年後の「電子書籍化」予測

劇的な変化には懐疑的？大学図書館の蔵書構成についての意見には個人差がある



10

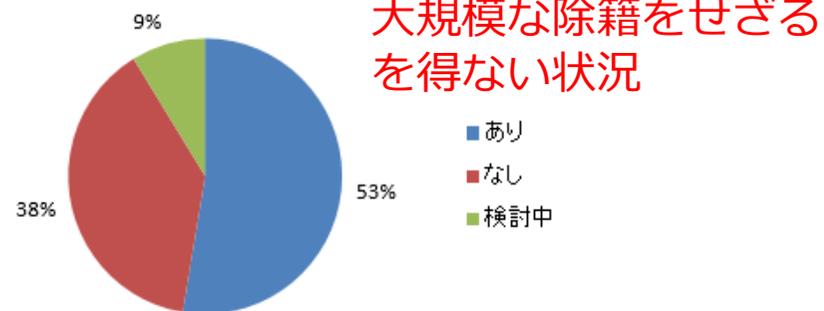
【設問4】 図書館から紙の本を減らすことの懸念



11

【設問5】 大規模な除籍実績

あり	なし	検討中	合計
30	22	5	57



12

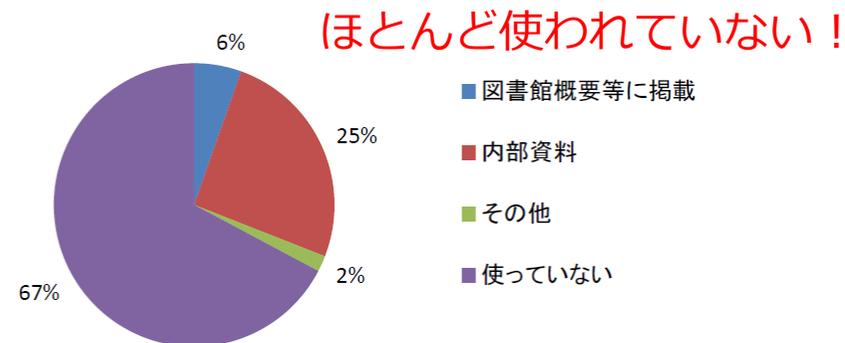
【設問7】 除籍のために必要なことは？

- ① 根拠のある除籍基準（価値喪失の根拠／利用頻度低下についての判断基準／利用頻度のみで可能かの検討／出版年・貸出回数等の数値による判断／受入年と連動した仕組み） 2 1
- ② 学内利用者（特に教員）の理解 8
- ③ 除籍可能かを判断できる蔵書に関する知識 4
- ④ シェアードプリント（共同保存体制／ILLでの入手が容易） 4
- ⑤ 利用状況等の調査 4
- ⑥ 代替資料（NDLデジタル化等）についての調査・購入 3
- ⑦ 労働力・人的余裕 3

13

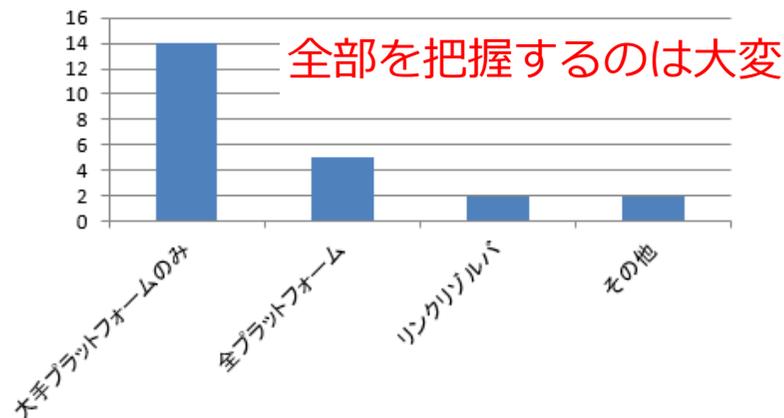
【設問9】 電子書籍の利用統計の活用

図書館概要等	内部資料	その他	使っていない	合計
3	14	1	37	55



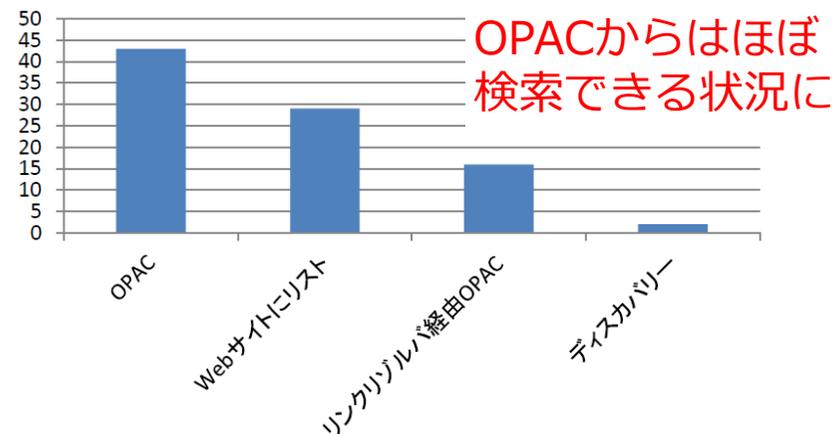
14

【設問10】 電子書籍の利用統計の集計方法



15

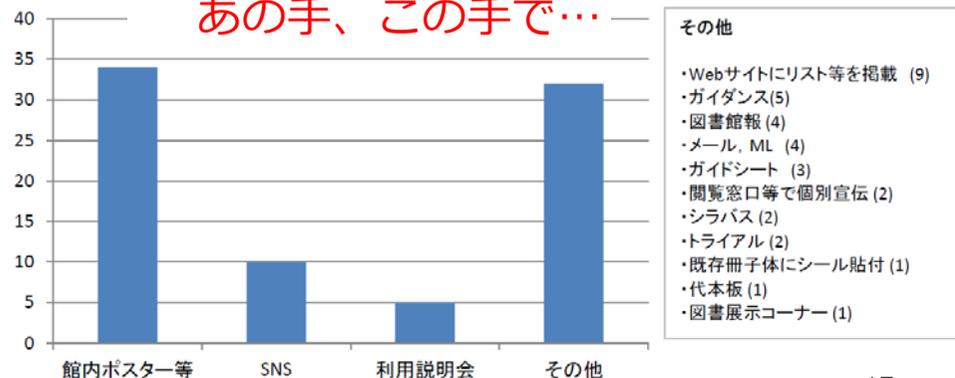
【設問11】 電子書籍のメタデータ提供方法



16

【設問13】 電子書籍の利用促進の方法

「その他」が多い=
あの手、この手で…

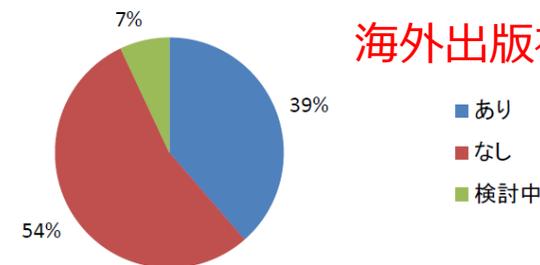


17

【設問14】 電子書籍試読サービスの実施実績

あり	なし	検討中
22	31	4

主な試読ベンダー
 ・Maruzen eBook Library
 ・ProQuest
 ・Wiley
 ・Ebook Central



海外出版社が中心

18

【設問16】 学術書籍の電子書籍への提言 (1) ビジネスモデル

- ① 買い切り (1冊ごと選択) 15
- ② 同時アクセス制限なし・可 7
- ③ (授業関連書等について) 期間限定で同時アクセスを割安で増やすオプション 3
- ④ 紙書籍と同時販売 3

19

【設問16】 学術書籍の電子書籍への提言 (2) 価格

- ① 紙と同程度 ※高いと手が出ない。貸出モデルだと紙と同程度の利用のはず 16
- ② 紙よりも安価 12
- ③ 紙+aの価格 ※冊子の2倍まで 4
- ④ メンテナンスフィー (プラットフォーム維持費) 等なしor安価に 4

20

【設問16】 学術書籍の電子書籍への提言 (3) 機能

- ① リモートアクセス (学認対応) 6
 - ② 印刷, ダウンロード無制限 (章単位DL可, 期限付きDL) 6
 - ③ プラットフォームに依存せず好みのビューワーや端末で閲覧可 (デバイスを限定しない) 5
 - ④ 単一プラットフォームで複数出版社の電子書籍が検索可・プラットフォームの統一 3
 - ⑤ 選書ニーズを顕在化させやすい仕組み (利用者からの購入希望受付機能) 2
- ※ その他色々な要望…全文検索/EPUB形式 (リフロー型) / DRMフリー/マーカー/付箋/メモ機能と出力/視覚障害者支援機能 (読み上げ、文字拡大、画面反転表示)

21

【設問17】 「電子貸出」導入についての意見 (1) 賛成意見+提案等

- 利用の多い書籍、古くなったら廃棄しても良いような実用書
- 一時的需要+版を重ねる教科書は複本の保存の必要がなくなる
- 延滞という概念がなくなる
- 期限付きの全文ダウンロード機能が前提
- コンソーシアムを作り、有利な契約条件を求める
- 文庫・新書サブスクリプションパックに関心あり。小説パッケージは？
- 個別電子貸出よりも、多くの学生が利用できる電子的環境における図書館サービスの展開を図るべき
- 公共図書館での電子貸出が広がれば、小説等については大学図書館では蔵書として揃える必要性は減る。

22

【設問17】 「電子貸出」導入についての意見 (2) 判断のポイントを示す意見

- ① 費用対効果が見込めるのか？公共図書館での契約条件を知りたい。
 - ② 大学図書館向けの製品があるのか？大学で必要とするコンテンツが揃っているのか？
- ※ 今後の大学図書館蔵書は長いスパンでの保存・活用を想定するのかどうか？

23

【設問17】 「電子貸出」導入についての意見 (3) 問題点等

- ▲大学図書館の利用実態に合うか？
- ① 大学で需要のある資料の取り扱いが少ない
 - ② 独占すると電子書籍の利便性がなくなる (大学では通読より、複数書籍の必要箇所を参照する利用が多い。占有より構成員が随時参照できる形が良い)
 - ③ DL可なら貸出でなくてもよい
- ▲問題点
- ① 導入経費、年間契約等の財源の確保 (多数)
 - ② 永年保存不要の資料を導入すべき？
- ※ その他…周知・広報の懸念/利用端末・環境の整備/貸出情報等の個人情報管理/図書館システムとの連動/会計規則的にOK？